

[013]学生法政論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2544138>

出版情報：学生法政論集. 13, 2019-03-20. Hosei Gakkai (Institute for Law and Politics) Kyushu University
バージョン：
権利関係：

編集後記

論文に挑戦した「奇特な」学生みなさんに、まずは感謝します。掲載の可否にかかわらず、応募したみなさん、それぞれ悪戦苦闘したと思いますが、それは間違いなく貴重な経験です。大切にしてください。また審査などに協力いただいた先生方にも、あらためてご理解とご協力に、感謝いたします。(爺)

応募頂いた皆様、有り難うございました。自分の考えを表現することの難しさを痛感されたことと思います。これからさまざまな文章を書く機会があると思いますが、今回の経験は、きっとその際の糧になるはずです。今後のご活躍を祈念しております。(TK)

提出された論文のレベルの高さに、正直、驚かされました。特に、外国語文献を読み込んだものではないとはいえ、外国法を検討対象とするものもあり、そのようなチャレンジ精神は素晴らしいものと思います。ただ、論文の内容自体は決して悪くなったにもかかわらず、丁寧に脚注が入れられていないために、評価を得られなかった論文があったことが残念でなりません。来年以降において論文を提出しようと考えている方は、脚注の入れ方についても、十分に研究してください。来年も、素晴らしい論文に出会えることを期待しております。(KT)

論文を投稿していただいた皆さんお疲れ様でした。これからも何事も関心をもって専門的にそして理論的な表現で第三者に納得させる力強い論文を書いてほしいと思います。豊かな感性を持ち、深い思考力を培い知識を広げることでレベルの高い学術研究へつながることを信じて、今後も努力を惜しまずチャレンジしてください。皆さんの活躍を期待しています。(SVU)

学生時代の柔らかい頭で色々なことを考えながら物を書くという作業は、それ自体がとても貴重な経験だと思います。特に、情報が溢れている現代社会では、不必要な情報を捨てる能力も求められるようになりました。その意味で、良い論文を書くことは、これまで以上に難しいのかもしれませんが、そのようななかで、今回果敢に応募した皆さんは、さらなる飛躍の機会を得たことでしょうか。来年度も、新たなチャレンジをお待ちしています。(A.E)

法学・政治学を多少なりとも学んだといえるには、各科目の主要テーマに関して、先行研究的に整理し、かつ、独自の視点を提供するような論文を書けるようになることが必要です。学生法政論集に掲載されるというのは、皆さんが九州大学法学部卒と呼ぶに値する知見を備えたことを証するものといえるでしょう。本誌に掲載された皆さんの成果(論文)がこれからの皆さんの活躍の土台となっていくことを期待します。(T²)

『学生法政論集』第14号(2020年3月発行予定)の募集につきましては、「九州大学法政学会ホームページ」および「九州大学法学部ホームページ」にてお知らせします(6月下旬予定)。